

横山ゆずり作 「友の死、そして…」

- 効果音 (走行中の電車が急停車する音)(乗客のガヤ)
- 乗客A どうしたんだ？
- 乗客B おい、だれか飛び込んだらしいぞ。
- 乗客C まあ、なんですって?!
- 車内アナウンス えー、お急ぎのところ誠に迷惑様です。ただ今、人身事故のため停車しております。もうしばらくお待ちください。
- 乗客C まあ。
- 乗客B やっぱり。それにしても、かわいそうに、即死だな。
- 乗客A しかし迷惑な話だな。よりによって、こんなラッシュ時に。
(間)
- 田崎洋子 ただいま。あ～あ、今日は事故があったとかでね、電車が動かなくて、すっかり遅くなっちゃった。あら…。(テレビのニュースに気づく)
- テレビ 今日午後6時ごろ、小田急線相模大野駅付近で、都立青春高校2年生、阿部浩之君17歳が、走ってくる電車に飛び込み、死亡しました。目撃者の証言によりますと、阿部君は自殺を図ったものと思われまます。なお、原因や動機などはまだ分かっておりません。阿部君は、普段からおとなしい性格で、学校でも…(FO)
- 洋子(モノローグ) 阿部君が…。
- テレビ (FI)では、次のニュースをお伝えします。(FO)
- 効果音 (「パチッ」とテレビのスイッチを切る音)
- 洋子(モノローグ) ウソよ。阿部君が自殺だなんて…。どうして？
- ナレーション 田崎洋子は、都立青春高校の2年生。クラスメートの突然の自殺の知らせは、あまりにもショックでした。次の日の朝――。
- 効果音 (クラスガヤ)
- クラスメートA おい、昨日のニュース見たか？
- クラスメートB 信じられないよ。あいつが、どうして自殺なんて。
- クラスメートC どうして一人で、黙って死にまいったんだよ。
- 効果音 (「ガラッ」と教室のドアが開く)
- 先生 みんなも、もうニュース等で知っているだろうが、昨日、このクラスの阿部浩之が亡くなった。
- クラスメート (口々に)「やっぱり…」「本当だったんだ」etc.
- 先生 小田急線の電車に飛び込んで、(言葉を詰まらせながら)…即死だったそうだ。
- クラスメート (すすり泣きや、ワーッと泣き伏す声)
- 先生 先生は、非常に残念だ。悲しい。死んでしまう前に、なぜ、一言でも話してくれなかったのか。命と引き換えにするほど悩んでいたことがあったのなら、どうして先生に、いや友達にでもいい、相談しなかったのかと思うと、本当に…。(間)今になっては、あれこれ言ってみても仕方ないことだが、しかし、もう二度とこのような悲しいことが起きないためにも、君たちにもよく考えてもらいたいんだ。阿部が、どうしてこんなことになったのか、ご両親には全く思い

当たることはないとおっしゃるんだ。親や先生には言えないこともたくさんあるだろう。どうだ、君たちはクラスメートだ。同じ仲間として、何か知っていることがあれば、教えてくれないか？

クラス ……

先生 ここ2、3日のうちに、だれか阿部と話したものはいないか？

クラス ……

先生 だれもないのか？ 宮下、お前はどうか？

宮下 はあ、「おはよう」ってあいさつぐらいなら。

先生 橋本は？

橋本 ……いいえ、別に。

先生 阿部が特に何か悩んでいたとか、聞いてないか、内田？

内田 いえ。おれも、「おはよう」って言うくらいで、あんまし話したことは…。

先生 ないのか。(間)そうか。阿部は、友達があまりいなかったのかもしれないな。

(間。放課後)

クラスメートA そう言えばおれたち、あんまり阿部と話したことはなかったな。

クラスメートB あいつ、割とおとなしくて目立たなかったもんな。悪いやつじゃないけど、イマイチ付き合いにくい感じしたもんな。

洋子 でも、死ぬほど思い詰めていたなんて、かわいそう。だれにも言わないで、一人で悩んで、きつものすごくつらかったんだわ。

クラスメートC いや、でもさ、もしかしたら、特に悩みなんかなくて、フラッと死んじゃったのかもしれないぜ。ほら、よくある“理由なき自殺”ってやつでさ。

洋子 そんな。まさかそんなバカなことってある？ 訳もなくフラッと死んじゃうなんて。

クラスメートD いや、全く訳がないってことじゃなくてもさ、本当に些細なきっかけでさ、「ああ、こんなことなら死んじゃったほうがいいや」なんて思うこと、あるんじゃないの？ ただ、そう思っても、ふつうは怖くて実際には死ねない場合が多いだろうけどね。もしかしたら、阿部の場合もそうだったのかもしれないぜ。

クラスメートA でも、もしそうだとしたら、勇気あるよな、あいつ。おれたち別にさ、なんの目的があって生きてるってわけでもないだろ。すべてがただ“なんとなく”って感じでさ。でもやっぱ、いざとなったら死ぬのは怖いもんな。

洋子 それじゃ、「自殺するのは勇気がある」って言うの？ おかしいわよ、そんなの、絶対に。自分から死ぬことを選ぶなんて、逃げてるんじゃないの？ もし電車に飛び込んだりする勇気があるんだったら、その勇気をどうして“生きる”っていうことにぶつけないの？ どうして、現実に目の前にあるものに、進んでいこうとしないの？

クラスメートB そりゃ、田崎の言うことは分かるよ。おれだって、なにも自殺肯定論者じゃないからさ。タダさ、だれでも“死んでしまおうかな”って考えるときがあると思うんだ。

クラスメートC うん。おれもさ、死のうと思ったことあるぜ。中学ん時さ、おれ、割と成績良かったんだ。ところが、2年ごろからロックに凝りだしてさ。レコードも結構集めたりして。そして聴くだけじゃ物足りなくて、自分でもギターやり始めたんだよな。そしたら夢中になっちゃってさ。もう勉強なんかほっぽり出して。もちろん成績メチャクチャ下がってさ。おやじが怒って、おれのレコードやギターを全部捨てちまったんだよ。あん時は悔しくてさ、「もうこんな家になんかいるもん

か」って言ったら、おやじのやつ、「いやなら出ていけ」って言うもんで、頭にきて、飛び出しちまった。本当に“死んでやる”って思ってさ。

クラスメートD でも結局、死ねなくて、未練がましく生きてんだろ。

クラスメートC まあな。でも今から思えば、“あんなことぐらいで死んでよかった”と思うけどさ。あの時は本気だったもんな。ちょうど傷つきやすい年ごろじゃん。ちょっとしたことでカーツとなっちまうんだよな。

クラスメートB 分かる分かる。そういう時ってさ、“別に「この世に生んでくれて頼んだわけじゃないのに”とか、いろいろ考えちゃうんだよな。

洋子 その言い方は、ちょっとひどいんじゃない？

クラスメートB だってそうだろ。人一人死んだって、世の中、どう変わるわけでもなし、他人に迷惑かけてるわけでもなし。せいぜい親や友達が悲しんでくれるくらいでさ。

洋子 だからって、勝手に死んでいいっていうことはないでしょ？

クラスメートB そりゃ分かってるけどさ。

洋子 わたしはね、いくら自分のことだって、やっぱり人間を殺すことだから、自殺も殺人と同じように悪いと思うわ。

クラスメートA なんだよ田崎、急に難しいこと言って。そういや、お前、「教会に行き始めた」って言ってたっけ？

洋子 うん。わたしもね、まだ日も浅いし、よく分かんないんだけどね、教会の話とか、聖書にはね、“命”とか“死”とかって言葉がよく出てくるの。それで、いろいろ考えちゃったんだ。教会の先生はね、こういう風に言うのよ。「わたしたち人間は、皆、自分の力で生きてるんじゃないくて、神様に生かされているんです」って。わたしも、神様ってまだはつきり理解できないけど、“命”とか“生きてる”って、本当に、考えれば考えるほど、不思議なことなのよね。それで、それは人の力によるんじゃないくて、神様によって”生かされてる”っていうこと、なんとなく分かるような気がするのよ。

クラスメートD そういう話になると、よえーよ、おれ。考えたことねえもん。

洋子 だけどね、つい昨日まで生きて一緒にいた阿部君って存在が、もうこの世のどこにもいないって、考えてみたら、なんか、悲しいっていうよか、ものすごく怖いと思わない？ “命”ってそんなにあっけない、むなしいものなのかしら。——わたしはね、“生きるってなんだろう”って、ゆべまんじりもしないで考えたの。そしたら阿部君のこと、ヘンな意味じゃなくて、とても身近に感じられて、何か大事なことを忘れていたような気になったの。うまく言えないけど。でね、もう遅いかもしんないけど、“阿部君は何を求めていたんだろう”って、これから自分なりに調べてみるつもりなの。

ナレーション 洋子は、半ば自分に言い聞かせるように、そう言いました。友の死の意味を聖書の中に問うところから、生きることの本当の意味をつかみたいと心に固く秘めながら——。

<完>